

日大土木会会報

発行：日大土木会広報部会

〒101-8308

東京都千代田区神田駿河台1-8

日本大学理工学部土木工学科内

TEL：03-3259-0662

FAX：03-3293-3319

http://www.nu-dobokukai.com

特別講演会 開催報告（企画部会） 「東京の都市インフラについて」 都・建設局長 佐野克彦氏



特別講演会の様子

企画部会（梶山修・部会長）では、本会の事業でもあり、併せて学生支援活動も兼ねまして、去る平成二十八年二月十七日（水）、理工学部駿河台キャンパス一三四教室において、特別講演会を開催いたしました。また、講演会に先立ち、学生向けに東京都庁説明会も併せて開催いたしました。

講演者は、本学理工学部土木工学科を昭和五十四年卒業（昭和五十六年本学大学院修了）され、東京都都市整備局技監を経て、現在建設局長を務められている佐野克彦氏でありました。佐野氏は、昨年の都市整備局技監の際にも「二〇二〇年オリピック・パラリンピック大会を見据えた街づくり」と題して講演いただきました。今回は建設局長の異なった立場から「東京の都市インフラについて」というタイトルで、東京都建設局が

抱えている諸問題及び取り組まれている諸事業等を紹介していただきました。また、東京オリピック・パラリンピックに向けた関連事業についての説明して

いただきました。

東京が世界の都市間競争を勝ち抜くために、東京都建設局が所轄する道路、河川、公園などがどのような役割を担うか、その整備の現状及び計画についての話題は、土木の役割の重要性を再認識させるものであり、来場した卒業生だけでなく、就職活動に動き始めた学生にとっても興味深い講演内容でありました。

講演のなかで、佐野氏は、東京が都市間競争を勝ち抜くためには、交通渋滞という最大の弱点を克服するとともに、陸・海・空の要衝を結ぶネットワークを形成し、人やモノの流れを円滑化にして経済を活性化させることが重要であると力説されました。特に中央環状線全面開通によって高速度道路の渋滞緩和は進んできたが、一般道路の渋滞緩和は不十分であることから、連続立体交差事業や駅周辺の再開発事業による改善が必要であると説明していただきました。さらには大規模なインフラ整備だけではなく、歩車道段差の解消、無電柱化事業、二〇二〇年オリピック競技会場や主要観光地の周辺七地区を

中心として自転車が走行しやすい空間のネットワーク化事業により、バリアフリーや安全性、景観性も兼ね備えることで都市の質の向上を目指すという計画を紹介していただきました。

聴講に来ていた卒業生及び学生（土木工学科、建築学科、交通システム工学科等）約八〇名にとつて、東京都建設局が取り組む諸問題を改めて知ることができたと共に、その指揮を執られる佐野局長の熱い使命感等も感じられる講演会となりました。

講演会終了後に、佐野局長を囲み意見交換会を二階会議室で開催しました。意見交換会においても講演会で聞けなかった質問を直接佐野局長に尋ねることもでき、出席されたゼネコン・コンサル・鉄道会社等のOBが二重にも三重にも局長を囲んで盛会の内、終了となりました。

講演会に先立ち、午後三時半から学生向けに開催された東京都庁説明会では、佐野局長からの「東京の魅力・やりがい」の講演の他に、本学理工学部土木工学科を卒業された斉藤有氏（平成二年卒）と菅原勇輝氏（平成二十二年卒）の二名の先輩方が、それぞれこれまで都庁で携われた仕事内容について体験談を話していただきました。特に、菅原氏がこれまで取り

組んだ仕事のなかで思い出が深い業務として大島土砂災害業務を取り上げ、短期間で復旧を行わなければならない苦労があった反面、市民の安全を守るやりがいを感じたと説明していただき、都庁生活を垣間見ることができました。参加学生も先輩方の話を興味深く聞き入っていました。



学生向け東京都庁説明会の様子



土木系各学科・主任挨拶

土木系三学部四学科の主任教授の先生方より各学科の近況報告およびご挨拶をいただきました。

理工学部土木工学科

岸井 隆幸 先生

理工学部交通システム工学科

佐田 達典 先生

工学部土木工学科

古河 幸雄 先生

生産工学部土木工学科

伊藤 義也 先生

理工学部土木工学科 主任 岸井 隆幸



理工学部土木工学科並びに土木工学専攻の教室主任を務めております岸井でございます。日頃より、土木教室の教育・研究活動ならびに学生の就職指導等に多大なるご支

援・ご協力を賜り誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。

本日は紙面をお借りして土木工学科の近況についてご報告させていただきます。

まず「入り口」ですが、近年社会資本を巡る風が少し変わってきたこともあって、土木工学科入学を希望する学生の数が増えるようになり

ました。ただ、他大学と同様、首都圏出身者が圧倒的多数になってきたことも事実です。是非、地方からも受験をして頂きたいと思

います。また、「出口」は就職率(就職希望者に対する比率)一〇〇%と極めて順調で、卒業時学生満足度調査でも土木工学科に対しては非常に高い満足度(特に、就職に対しては群を抜いた評価)が示されています。これも

OBの皆様のご活躍とご指導・ご協力によるものであり、教職員一同深く感謝を

しています。今年には引き続き国家公務員総合職(旧上級職に相当)の合格者が国士

彦教授は引き続き、短大次長として理工学部執行部の一翼を担われています。

最後に「学びの場」である校舎ですが、既に九号館が取り壊され、二年後の竣工に向けて新しい校舎(仮称「南棟」)の工事が順調に進んでおります。新校舎完成の暁には、土木工学科すべての研究室2フロアーに集約されることとなりますので、ご期待を頂きたいと存じます。

十八歳人口の減少・国の地方大学重視政策の中で、土木工学科としても安穩としていることは許されません。土木教室一同、今後とも教育・研究・社会貢献、様々な分野でより一層の努力を重ねてゆきたいと考えております。

交通省に就職することとなりました。二年連続で国土交通本省採用者が出たことは、現役の学生に非常に良い刺激となっております。

次いで「四年間の教育の質」に結び付く教員体制ですが、長年にわたって環境工学分野をリードして下さった松島眸先生(特任教授)がこの三月をもってご退職となりました。一方、新たに国土交通省から中村英夫教授(前職・中部地方整備局建政部長)をお迎えするとともに、五名の先生方(羽柴秀樹・金子雄一郎・小林義和・高橋正行・大沢昌玄)の教授昇格と小沼晋

先生の准教授昇格が実現しています。その他、前野賀

彦教授は引き続き、短大次長として理工学部執行部の一翼を担われています。

最後に「学びの場」である校舎ですが、既に九号館が取り壊され、二年後の竣工に向けて新しい校舎(仮称「南棟」)の工事が順調に進んでおります。新校舎完成の暁には、土木工学科すべての研究室2フロアーに集約されることとなりますので、ご期待を頂きたいと存じます。

十八歳人口の減少・国の地方大学重視政策の中で、土木工学科としても安穩としていることは許されません。土木教室一同、今後とも教育・研究・社会貢献、様々な分野でより一層の努力を重ねてゆきたいと考えております。

OBの皆様のご活躍とご指導・ご協力によるものであり、教職員一同深く感謝を

しています。今年には引き続き国家公務員総合職(旧上級職に相当)の合格者が国士

彦教授は引き続き、短大次長として理工学部執行部の一翼を担われています。

最後に「学びの場」である校舎ですが、既に九号館が取り壊され、二年後の竣工に向けて新しい校舎(仮称「南棟」)の工事が順調に進んでおります。新校舎完成の暁には、土木工学科すべての研究室2フロアーに集約されることとなりますので、ご期待を頂きたいと存じます。

十八歳人口の減少・国の地方大学重視政策の中で、土木工学科としても安穩としていることは許されません。土木教室一同、今後とも教育・研究・社会貢献、様々な分野でより一層の努力を重ねてゆきたいと考えております。



理工学部土木工学科のホームページ

理工学部 交通システム工学科 主任 佐田 達典



土木会の皆様には、引き続き多方面にわたるご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。本誌面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

本学科は、わが国で唯一の交通施設の計画、建設、そして管理・運営を行える技術者の育成を行う土木工学系の学科として教育・研究を進めて

交通システム工学科の教室主任を務めております佐田でございます。一昨年十月に教室主任を再度拝命し本

年九月末までの任期となりま

す。本学科は平成二十五年四月に社会交通工学科から交通システム工学科へ名称を変更し、本年で四年目を迎えます。本年三月には社会交通工学科の最後の学年が卒業し、四月からは全学年が交通システム工学科となりました。関係各位のご支援、ご協力をいただきながらお陰様でここまで順調に学科運営を進めていくことができました。本誌面をお借りして厚く御礼を申し上げます。

本学科は、わが国で唯一の交通施設の計画、建設、そして管理・運営を行える技術者の育成を行う土木工学系の学科として教育・研究を進めて

交通システム工学科の教室主任を務めております佐田でございます。一昨年十月に教室主任を再度拝命し本



理工学部交通システム工学科のホームページ

まいました。加えて、交通システム工学科へ名称を変更することにより、情報技術を活用し移動者と交通機関・交通施設が有機的に結合した交通システムの再構築と、それによるより安全で持続的な交通社会の創出を担う人材の育成を目指しております。具体的には、①高度情報技術を活用した高度交通システム(ITS)などに代表される高度な交通システムに対する理解と応用力の養成、②交通インフラの整備から管理の時代に直面する中で、環境・安全・福祉など多面的側面から捉え直していく創造力の養成、③個々の交通施設や交通機関が連携・統合した一つのシステムを構築していくマネジメント力の養成を目標として教育・研究活動を進めております。

学科名称は変更いたしましたが、土木工学に軸足を置く学科であることに変わりはありません。交通システム工学科にとりまして、教育、研究、就職活動などのあらゆる面におきまして、理工学部土木工学科殿をはじめとする土木会各学科との連携は不可欠

です。このからも連絡を

まいました。加えて、交通システム工学科へ名称を変更することにより、情報技術を活用し移動者と交通機関・交通施設が有機的に結合した交通システムの再構築と、それによるより安全で持続的な交通社会の創出を担う人材の育成を目指しております。具体的には、①高度情報技術を活用した高度交通システム(ITS)などに代表される高度な交通システムに対する理解と応用力の養成、②交通インフラの整備から管理の時代に直面する中で、環境・安全・福祉など多面的側面から捉え直していく創造力の養成、③個々の交通施設や交通機関が連携・統合した一つのシステムを構築していくマネジメント力の養成を目標として教育・研究活動を進めております。

学科名称は変更いたしましたが、土木工学に軸足を置く学科であることに変わりはありません。交通システム工学科にとりまして、教育、研究、就職活動などのあらゆる面におきまして、理工学部土木工学科殿をはじめとする土木会各学科との連携は不可欠

です。このからも連絡を

まいました。加えて、交通システム工学科へ名称を変更することにより、情報技術を活用し移動者と交通機関・交通施設が有機的に結合した交通システムの再構築と、それによるより安全で持続的な交通社会の創出を担う人材の育成を目指しております。具体的には、①高度情報技術を活用した高度交通システム(ITS)などに代表される高度な交通システムに対する理解と応用力の養成、②交通インフラの整備から管理の時代に直面する中で、環境・安全・福祉など多面的側面から捉え直していく創造力の養成、③個々の交通施設や交通機関が連携・統合した一つのシステムを構築していくマネジメント力の養成を目標として教育・研究活動を進めております。

学科名称は変更いたしましたが、土木工学に軸足を置く学科であることに変わりはありません。交通システム工学科にとりまして、教育、研究、就職活動などのあらゆる面におきまして、理工学部土木工学科殿をはじめとする土木会各学科との連携は不可欠

です。このからも連絡を

まいました。加えて、交通システム工学科へ名称を変更することにより、情報技術を活用し移動者と交通機関・交通施設が有機的に結合した交通システムの再構築と、それによるより安全で持続的な交通社会の創出を担う人材の育成を目指しております。具体的には、①高度情報技術を活用した高度交通システム(ITS)などに代表される高度な交通システムに対する理解と応用力の養成、②交通インフラの整備から管理の時代に直面する中で、環境・安全・福祉など多面的側面から捉え直していく創造力の養成、③個々の交通施設や交通機関が連携・統合した一つのシステムを構築していくマネジメント力の養成を目標として教育・研究活動を進めております。

学科名称は変更いたしましたが、土木工学に軸足を置く学科であることに変わりはありません。交通システム工学科にとりまして、教育、研究、就職活動などのあらゆる面におきまして、理工学部土木工学科殿をはじめとする土木会各学科との連携は不可欠

です。このからも連絡を

密にして進めさせていただきたいと存じます。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

【学科の話題】

学部生、大学院生の就職状況につきましては、諸先輩方のご支援によりここ数年好調を維持しております。平成二十七年の内訳は、公務員三十四名、建設業三十六名、運輸二十六名、コンサルタン

ト十名などとなっております。また、平成二十八年新入生として学部生一四三名、大学院生十名を新たに迎えられることができました。

教室人事として、平成二十七年末で川崎智也助教が退職されました。平成二十八年より兵頭 知助手が採用されました。教員の近況としては、伊東

英幸准教授が環境アセスメント学会奨励賞を、稲垣具志助教が交通工学研究会研究奨励賞・安全の泉賞を受賞されました。また、伊澤 岬名教授、轟 朝幸教授、江守 央助教、川崎智也助教(交通システム工学科)、畔柳昭雄教授、居駒知樹教授(海洋建築工学科)、青木義男教授(精密機械工学科)らで進めている東日本復興水上空港ネット

ワーク構想研究会(日本大学理工学部復興支援チーム)の活動「東日本震災被災地の更なる復興と全国津々浦々の発展のための Seaplane Network 構想の実現」がジャパン・レジリエンス・アワード(強靱化大賞)二〇一六の最優秀レジリエンス賞(交通・物流部門)を受賞されました。

【その他】

卒業生のネットワークは、大学にとって大変貴重な財産です。交通システム工学科では、各学年の同窓会、各研究室でのOB・OG会などの開催を支援させていただいておられます。大学での開催を検討されている卒業生の皆さんは何時でも遠慮なく学科の方へご相談ください。お待ちしております。



工学部土木工学科 主任 古河幸雄

日大土木会の皆様には熱意ある様々なご援助をいただき、心から厚く御礼申し上げます。東日本震災による原子力発電所爆発の風評被害により、入学者が減少した年度の学生をこの三月に送り出すことができました。これらの学生には、土木工学科として経験したことのない少人数教育により密度の濃い教育ができたものと思っております。それ以前では大変厳しい状況が続いておりました入学試験の志願者が、学科教員の努力や日大土木の名を高めていただいている卒業生の奮闘もあり、ここ数年は好転するなど嬉しい状況が続いております。平成二十八年度は、新入生として一八五名を迎えることができました。これらの学生には、四年間の教育を経て社会に貢献できる技術者として送り出します。その際にはご指導をよろしくお願ひ申し上げます。

平成二十八年度の教員の新任・退職等の異動は、ごいませんが、手塚先生(水環境工学)が専任講師に昇格されました。工学部では、ロハス(LOHAS: Lifestyles Of Health and Sustainability: 心と身体



工学部土木工学科のホームページ

地球にやさしい生き方)をキーワードに掲げて、教育・研究・開発に取り組んでいきます。土木工学科では、実物大の橋を工学部内に建造した「ロハスの橋(写真1)」があり、岩城教授・子田准教授によりコンクリートの劣化のメカニズムを解明して、長寿命化を実現する対応を目的にしています。また、中野教授は、水質浄化を目的として花壇の機能を兼ね備えた「ロハスの花壇(写真2)」を設置し、エネルギーを使わず砂やりサイクルガラスをの段に重ね、庭の花壇で花を楽しむながら排水を浄化するシステムの実証実験を行う自然の営みを活かしたグリーンインフラ

の開発と教育のフィールドとして活用されています。学生の活躍では、学会発表で二名が表彰を受けました。一人目は、大学院博士前期課程一年生の大附遼太郎さんです。第五十回日本水環境学会年会において、発表題目「学生食堂排水を処理する花壇型人工湿地の運転開始から一年間の水質浄化特性」が年会優秀発表賞(クリラタ賞)を受賞いたしました。二人目は、土木工学科四年生の秋田紘志さんです。発表題目「多段型人工湿地における六年間のリン除去性能の変遷」が奨励賞を受賞いたしました。

平成二十七年の就職状況は非常に良好で、就職率一〇〇%を四年連続で達成し工学部で最も高い内定率を得ることができました。工学部卒業の新人が先輩方の職場に配属されることもあるかと思っております。その節はご指導賜りますようお願い申し上げます。

日大土木会より援助して頂いております教育支援費により、平成二十七年九月九日に開催した学生見学会に利用させて頂きました。当日は大雨警報が発令される天気であったため、三森峠のトンネル工事現場には

アクセス道路の土砂崩れの危険のため見学できず残念な思いをしましたが、須賀川市役所新庁舎の免震工法を取り入れた建設工事を見学できたことをご報告申し上げます。また、ご支援に感謝申し上げます。

工学部では、毎年北桜祭の開催時にあわせ、「母校を訪ねる会」(平成二十八年十月二十三日)を実施しています。今年度は、昭和四十一、五十一、六十一、平成八、十八年三月の卒業生が該当します。該当される卒業年次の会員の皆さん、ご出席をお待ちしております。



写真-1 ロハスの橋



写真-2 ロハスの花壇

生産工学部土木工学科
主任 伊藤 義也



①主任挨拶

日大土木学会の皆さん、平成二十六年四月から主任を仰せつかっております伊藤でございます。

②学科の話

なご支援、ご指導並びにご援助をいただいております。今後とも引き続きご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

○平成二十七年就職状況
平成二十七年年度の学部学生並びに大学院生の就職状況は日大土木会の会員の並びに諸先輩のご協力およびご支援もまして、学部学生一九八名、修士課程一〇名、博士課程四名の卒業生全員が就職でき、本年度も一〇〇%の就職率を確保することができました。学部

③学科の近況報告

○落成実教授副学長就任
平成二十七年十二月五日を以て、本学科の落成実教授が日本大学副学長に選任され就任いたしました。

平成二十八年四月二十二日には落成実副学長のますますのご活躍を祈念して、副学長就任祝賀会が催され、理事長並びに学長とご出席を賜ると共に四百五十人の卒業生と学校関係者より、暖かいご支援を頂きました。



お知らせ

- 2015.04.21 土木学会に「産学連携」を推進する...
- 2015.04.01 平成27年度就職状況が掲載されました。
- 2015.03.26 平成27年度卒業生就職状況が掲載されました。
- 2015.02.18 平成27年度卒業生就職状況が掲載されました。
- 2014.11.11 産学連携推進委員会が設立されました。
- 2014.11.10 産学連携推進委員会が設立されました。
- 2014.09.24 土木学会「産学連携」推進委員会が設立されました。
- 2014.09.19 産学連携推進委員会が設立されました。
- 2014.08.05 産学連携推進委員会が設立されました。

生産工学部土木工学科のホームページ

○新任及び昇格の先生の紹介
新任の先生を平成二十八年四月に佐藤克己准教授をお迎えしております。

佐藤克己准教授は平成七

年日本大学大学院生産工学研究科 土木工学専攻博士前期課程修了、中日本コンサルタント(株)勤務され、平成二十七年に日本大学より、学位を取得されております。施工計画等を担当されております。

総会は六月十八日(土)特別講演会・地盤の会も同日に開催
平成二十八年の日大土木会通常総会は平成二十八年六月十八日(土)午後四時より理工学部駿河台校舎にて開催いたします。会員の皆様の参加をお待ちしております。

○地盤の会 研究発表会
午後一時半
・「洪積砂層の液状化判定」
新井 新一氏
(ダイヤコンサルタント)
・「道路の建設と土工技術」
三嶋 信雄氏
(川崎地質)

お知らせ

平成二十八年春の叙勲で、本会副会長・業務部会長を務められております梶山 修氏(元東京都都市整備局長・昭和四十四年理工・土木卒)が瑞宝小綬章を受章されました。

おめでとうございます。

おくやみ

平成二十七年と二十八年にかけて以下の方々の訃報が届いております。
謹んで皆さまにお知らせ

会費納入のお願い

皆様方からの会費納入により、本会の諸活動(特別講演会・学科への教育補助費贈呈等)が実施されております。引き続き、年会費(三千元)納入のご協力、よろしくお願

